

2016年10月8日（土）

## 国際森林シンポジウム感想

京都府立大学 生命環境学部  
森林科学科 4回生 谷本直緒子

私は、国際森林シンポジウムに参加させていただいて、林業の現場や木材の利活用など森林に関わるさまざまな分野の現状を知ることができました。地方創生のための木材利用を推進したり、霞が関で木を生かした施設を建設したりするなど、さまざまな取り組みが国全体で行われていること、さらにコンテナ苗やCLTなどの新しい技術の開発が進められていることなど、大学の授業だけでは知りえない貴重なお話をお聞きすることができてとても勉強になったとともに、森林・林業の問題についてより深く考えるきっかけにもなりました。シンポジウムの最後に、川上と川下の連携の話題でお話しされていた「木材に新しい文明をつくる」という言葉がとても印象に残りました。1千万haもある日本の人工林を賢く利用し、新しい取り組みや技術を推進していくことは、これからの日本にとって重要なことなのだと改めて感じました。



当日のシンポジウム会場の様子